

令和7年度 第2回桐生市青少年問題協議会 結果報告

日 時：令和8年2月12日（木）10：00～11：20

場 所：青年の家 講堂

出席者：小林一弘、辻正男、小島強、中隋伸洋（代：萩原洋平）、中村清、松島宏明、青柳明美、村井正典、阿久津泰、蛭間好江、常見武司、白崎あつ子、青木講一、金子公江、馬場仁、高松富雄、糸井広江（教育環境課）、荻野剛朗（教育環境課教育支援係）
須藤まりこ、星野正史、金子秀明、関真克、新井礼子、関口宏高

<全体会>

- 1 開 会 司会：星野課長
- 2 挨拶 小林教育長
- 3 報 告

- ・桐生市いじめ防止対策として、桐生市教育委員会の取組、桐生市いじめ防止子ども会議の概要、今年度のいじめ防止対策の成果と課題について、荻野教育支援係長が報告した。

<質疑>

委員：私は中学校の「いじめ防止子ども会議」に参加した。各学校、笑顔で取り組みを発表し、素晴らしい会であった。しかし、会議の中では目に見えるいじめ・潜在的ないじめに対してどのような取り組みをしていくのか見えなかった。今後、教育委員会として、どのように取り組んでいくのか聞きたい。

委員：目に見えるいじめに対しては、第一に被害者に寄り添った支援に取り組む。そして加害者に対しては、その生徒の更生・成長を促す支援を行っていく。潜在的ないじめに対しては日常的な指導として、いじめ防止子ども会議で発表されたような取り組みを実践することで好ましい人間関係作りを進めていきたい。

- ・「桐生市明るい家庭・地域づくり運動」推進市民大会について、関口主査が報告した。昨年度なみの規模で、コンパクトな形で開催できた。推進標語、イメージ写真は、「明るい家庭・地域づくり」について考える機会として、市内の学校や幼・保・こども園、一般からの作品を募集し、今年度はイメージ写真で多くの応募があった。また、少年の主張の発表は、考えさせられる内容で素晴らしかった。青少年問題協議会委員の皆様には、実施委員として作品の審査をしていただいた。

<質疑なし>

- ・令和7年度第1回桐生市青少年問題協議会で話し合われた内容等について各部会長より資料をもとに報告。

部会長：第1回目の問題協議会では2つの部会で様々な問題について話したが根本的には違いがないと感じた。子ども対策部会では子どもの変化ということをテーマに話し合

った。環境の変化、価値観の変化、保護者の変化（人間関係を構築できない）などが子どもたちの変化の原因として考えられる。その中から情報交換・コミュニケーションの必要性が課題として浮かび上がってきた。

部会長：各団体で抱えている問題・悩み等について話した。コミュニケーションが失われていること、子どもが個の世界で生きていること、大人の余裕がないこと、子どもが安心して過ごせる場所がなくなっていること等について意見交換した。では、それらに対してどのような解決方法があるか、今日は話し合えればと思っている。前回の会議の中で「子ども安全協力の家」が機能した例について報告があった。これも、子どもが安心して過ごせる地域づくりの一例なのではと考えた。

<質疑なし>

4 閉 会 司会：星野課長

<専門部会> 10：30～11：20

合同専門部会（講堂）

1 開 会 司会：星野課長

2 協 議 <議長：松島部会長>

委員：青少年問題協議会は2年任期で1年間に2回行われる。次年度はメンバーも変わるかもしれないので、ここで一つまとめたい。今回は1回目の会議を受けて、出てきた課題に対して、もう一步議論を進めたい。

テーマを4つ設定した。「情報交換の必要性」「コミュニケーションをとる方法」「大人の使命」「余裕を持つには」これらについて議論を進めたい。まずは、コミュニケーションをとる手法について話してみたい。

委員：警察では県の機関になるが、子供・女性安全対策課に少年サポートセンターがあり、専門の職員がいて、孤立児などとコミュニケーションをとるなどして立ち直り支援を行うなどの「場づくり」をしている。専門の職員を大学生がサポートするなどして活動していて有効な活動であると思うが、これを市町村単位（署単位）で行うことができるかと言えば難しい。

委員：コミュニケーションの基本は「あいさつ」。コミュニケーションがしっかりととれていれば、昨今、問題になっているセクハラ・パワハラ等の問題も防ぐことができる。ボーイスカウトでは集団での学びを基盤とし、班を構成し上級生が下級生の面倒を見るということを行ってきたが、近年は班を構成することが難しい（少子化）。集団

での学び、コミュニケーションを学ぶことが難しくなっている。

委員：子ども会も休会が増えてきた中で、親の協力を得るのは難しい。そこで考えたのは「防災」をテーマに地域住民全員で取り組むこと。避難訓練・炊き出しなど人と触れ合う・顔を合わせる機会をつくる。地域全体で顔を合わせられるような（世代間をつなぐような）機会をつくる必要があるのではと考える。

委員：「防災」をテーマに皆で取り組む、世代間を繋ぐという提案が出たが、学校ではたて割り活動は、最近ではどのように行っているのか。

委員：月に2回ほど時間を作り、たて割り活動を行っているがとても良い。上級生が中心になって、1年から6年まで楽しめる活動を考え、実施する経験は大変意義深い。昔は当たり前の風景ではあったが、現在は「学校だからできること」と思い実施している。

委員：2年生で行う職場体験（コロナ以降休止しているが）は社会人と接し、心構えを学ぶことができる重要な体験。3年生で行う保育実習では、生徒同士、生徒と保育士、生徒と幼児など様々な関りが見えるとても良い体験活動である。学習の中で地域を巻き込んだ活動を取り入れていければ。

委員：コロナ禍で停止してしまったものも多いが、有意義なものはリスタートしていければ。ある中学校では職業講話（地域の企業を集め複数のブースを作り、時間を区切り話を聞く）という活動を行っている。他校の活動を取り入れてもいいし、良いものは取り入れていければ良いと思う。

委員：近年、子どもが自ら周りに関りを持つという意欲が減っているように思う。地域のもちつきでも、低年齢層の参加が減っている。参加を促す親も少ない。子どもの習い事などでは多くの子ども・保護者が集まる。こういう場がもっとあれば良いと思う。

委員：ここからは大人に対する部分を考えていきたい。前回の会議で大人に余裕がないという意見が出たが、これについてどう思うか。

委員：誤解を恐れず言うと、ゆとり教育の世代あたりから、自分の好きな事をして生きていけばいいという感覚で生活しているように思う。自分が興味あることに食いつき、小さなコミュニティを作る。昔の子ども会のような場があれば良いが、少子化が進んだ現在では難しい。先ほどの話にもあったが、「災害対策」など生活していく上で大切なことを通して地域のつながりを作ることが大切と考える。地域の中にはコロナ禍でやめてしまった行事・取り組みが多くある。必要なものは再開し、顔のわかる人間関係を作っていけると良いと思う。

委員：人と人が会って話せる場が少ない。場を作っても面倒に思っただけで参加をしない人が増えている。育成会でも、親が面倒に思っただけで子どもを参加させないという様子が見える。それに対して働きかけてきたが、改善は見られない。

委員：子どもの自主性を育てるという狙いで、「おにぎり作り」というのを企画した（境野地区）。その時に、参加した子どもは自分の分だけでなく、親・兄弟の分も自ら進んで作っていく。親（周り）が思うより子どもはしっかりしている。

先日、地域で「子どもがあいさつをしてくれない」という話を聞いた。「自分はあいさつをしたの」と聞き返すと、自分からはしていないという。大人からあいさつすれば子どもはちゃんと返してくれる。子どもを育てるのは「地域」とつくづく思った。

委員：学童クラブに関わっているが、児童数は年々減っているのに、学童を利用する児童は逆に増えている。上級生がリーダーになって良い活動をしている話も聞く。一方で、家にこもってオンラインゲームをやっている子どもも多い。その中で、過激な言葉を使いながらやっているのを見ると心配になる。子どもが部屋で過ごしていることは親にとっては都合が良いが、過ごし方の問題もある。

委員：最近、補導活動をしていても子どもを見ることがない。子どもは家の中でゲームをしているのでは。

「余裕」という言葉が出たが、「余裕」というのは自分で作るものであると考える。大人が「余裕」を作ろうとしていない。先日参加した研修会で、子どもへの接し方で、「子どもの関心に関心を持つ」ことの重要性という話を聞いてきた。お互いのことに関心を持つことがコミュニケーションの始まりだと思う。

委員：夜間補導をしていても、ほとんど子どもを見かけない。スケボー少年も全く見かけない。先日、参加した会議でハラスメントが話題に出た。何気ない一言がハラスメントになるのでコミュニケーションがとりづらい現状があると多くの方が言っていた。新年会のような飲み会を企画しても、若い職員からは「それは義務ですか」「時間外手当は出るんですか」などと言われてしまう。コミュニケーションの機会を作ろうとしても理解してもらえない。

委員：気になったのはコミュニケーションについて。大人同士が上手にできない中、子どもといかに接するかという問題がある。精神科医がよく使う手法に視線・呼吸を合わせるという方法がある。こうして相手を思いやることで「敵ではなく仲間なんだ」と認識してもらおう。これを地域に落とし込めれば、良いコミュニケーションが生まれるのでは。大人が自分の利益を度外視して、相手のことを考えることができれば、子どもにも良い影響があると考え。「みんなで良い方向に向かおうよ」という一方的ではない何かでそれを促していければと思う。

委員：とても重要であるが、簡単には結論の出ない議論をしている。今日の発言をまとめて次年度へ向けて、半歩でも進めればと思う。

4 閉会 司会：星野課長